

共同声明
宇宙に関する包括的日米対話 第4回会合

2017年5月16日

日米両国政府は、両国首脳によって宣言された、宇宙分野での二国間協力を引き続き発展させるとともに日米同盟を更に強化するという共通目標に従い、2017年5月16日、ワシントンDCにおいて、宇宙に関する包括的日米対話の第4回会合を開催した。この会合は、世界で最も進んだ宇宙利用国である日米両国が、宇宙分野での更なる二国間協力を強化し、現在及び未来の世代のための宇宙空間の持続的、安全かつ安定的な利用の確保に向けて、国際社会と緊密に協力していくという強固かつ共有された意志を示すものである。また、第11回日米GPS全体会合及び第7回日米宇宙協議(民生・商業利用)が、包括対話に先立って開催され、これらの会合の結果もまた報告された。

今次会合の共同議長は、米国からは大統領府国家安全保障会議と大統領府科学技術政策局の代表が務め、日本からは外務省と内閣府宇宙開発戦略推進事務局の代表が務めた。主な出席者として、米国からは国務省、国防省、商務省、内務省、運輸省、国家地理空間情報局及び連邦航空宇宙局(NASA)が、日本からは外務省、内閣府宇宙開発戦略推進事務局、国家安全保障局、内閣衛星情報センター、内閣府総合海洋政策推進事務局、文部科学省、経済産業省、環境省、防衛省、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)及び国立研究開発法人国立環境研究所(NIES)が参加した。

今次第4回会合は、両国間の協力を広範で包摂的かつ戦略的な観点から増進・強化するという取組みを継続している。これまでの一連の会合は、両国政府からの横断的な専門家の参加を得て、民生、商業、国家安全保障上の宇宙に関する関心と協力に対する政府一体となったアプローチを強調するものである。

今次第4回会合において、双方は、リモートセンシングデータの取扱いや衛星打上げシステムに関する規制など日本の法制度及び宇宙技術や宇宙システムに影響する米国の輸出管理に関する最近の進展を含むそれぞれの宇宙政策に関する最新情報を紹介した。双方は、2017年2月の共同声明において、両国首脳が更に「宇宙及びサイバー空間の分野における二国間の安全保障協力を拡大する」ことについて強い決意を確認したことを認識し、宇宙空間の安全保障に関する協力について議論し、現在及び未来の協力プロジェクトを通じた、両国の宇宙システムの抗たん性を含む宇宙

空間における機能保証の強化が非常に重要であるとの認識を共有した。双方は、また、具体的には多国間のグローバル・センチネル演習を引きつつ、宇宙状況把握(SSA)に関する情報や知見の共有についての相互の関心を再確認した。双方は、海洋状況把握(MDA)のための宇宙の利用に関する知見の基盤を構築するために、政府全体の協力の機会を引き続き探求していくことを確認した。双方は、両国の宇宙産業協力の重要性を確認し、本件を本対話において議論することで合意した。双方は、米国の全世界的測位システムや日本の準天頂衛星システム(QZSS)などの衛星航法システム及び地球観測を含む宇宙利用や宇宙科学に関する更なる協力について議論した。この関連で、双方は、2017年12月2日から7日にかけて京都で開催される「衛星航法システムに関する国際委員会第12回会合」を歓迎する。

双方は、宇宙空間における法の支配の重要性を再確認した。双方は、国連宇宙空間平和利用委員会(UNCOPUOS)やG7など両国が参加する多国間協力のフォーラムにおける現行の諸活動について最新の情報を交換したほか、宇宙活動の安定性を強化するための透明性・信頼醸成措置(TCBMs)を引き続き協調して追求することの重要性を再確認した。双方は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成における宇宙利用の役割を認識し、宇宙分野での信頼醸成や能力構築のためのアジア太平洋地域の枠組についても議論した。双方は、2015年12月22日の国際宇宙ステーション(ISS)に関する「日米オープン・プラットフォーム・パートナーシップ・プログラム」(JP-US OP3)のもとで行われている現在の取組みを歓迎し、ISS及び将来の宇宙探査協力の戦略的・外交的重要性を再確認した。双方は、2018年3月3日に東京で開催される「第2回国際宇宙探査フォーラム」を期待している。双方は、新たな宇宙活動や、宇宙交通管理及び宇宙資源開発における協力の機会について議論した。

双方は、両国の宇宙協力政策全体に指針を与えるメカニズムとしての本対話の戦略的な価値を再確認するとともに、本対話が、両国間の各省、各部及び各機関をまたいだ協力的な関係を強化し続けるであろうことを再確認した。

双方は、本対話の第5回会合を2018年に日本において開催することで一致した。